

スタートアップ総合支援プログラム（SBIR支援） 概要資料

生物系特定産業技術研究支援センター
（生研支援センター）

1. はじめに
2. スタートアップ総合支援プログラムの概要
3. 各フェーズの詳細
4. プログラムマネージャー (PM)
5. PMからのメッセージ
6. 研究開発テーマ
7. 伴走支援のメニュー
8. スーパーアグリクリエーター発掘支援プログラム
9. プログラムスケジュール
10. (参考) 日本版SBIR制度について

1. はじめに

我が国の農林水産業・食品産業は、生活に必要不可欠な食料を供給する機能を有するとともに、国土保全等の多面的機能を有しています。また、農業・食料関連産業の国内生産額は全経済活動の1割に相当し、我が国の経済の中で重要な地位を占めています。

加えて、SDGsの取組が国際的に広がる中、農林水産業・食品産業における取組みやビジネスが、SDGsの達成に率先して貢献し、消費者行動や他分野からの投資を主導することで、当該産業はさらなる成長が期待されます。

しかしながら、農林水産業・食品産業は、高齢化や担い手不足による地域コミュニティの衰退や、大規模災害、野生鳥獣害、家畜疾病病等のリスク増加など、あらゆる危機に直面しています。このような諸課題を解決し、我が国の農林水産業・食品産業の競争力を強化するには、従来の常識を覆す革新的技術・商品・サービスを生み出す研究開発と、その開発技術を産業や社会に普及することが必要不可欠となっています。

他方、近年社会課題ニーズが多様化する中、独自の技術シーズを短期間で新規事業につなげ、破壊的なイノベーションを創造するスタートアップ・中小企業（以降、スタートアップ等）の重要性が高まっています。いわば、スタートアップ等の多様性と機動性がイノベーション創出の一翼を担う時代が到来しており、社会課題を解決し産業競争力を強化する重要な担い手として期待されています。

そこで、本スタートアップ総合支援プログラム（SBIR支援）では、農林水産・食品分野における政策的・社会的な課題の解決に資する研究開発テーマを設定し、スタートアップ等に対し、当該テーマに合致し且つ事業化に強い意欲のある研究課題を、研究ステージ（フェーズ）毎に公募します。本プログラムでは、事業化に豊富な経験を有するプログラムマネージャー（PM）が、採択者のフェーズ、課題やニーズに応じて様々な伴走支援プログラムを用意し、研究開発から実用化まで段階的なサポートを実施し事業化をリードします。

このプログラムを通して、農林水産業・食品産業の課題解決を図る新たなビジネスがひとつでも多く創出されるよう、産官学一体となり、事業を推進したいと考えます。

2. スタートアップ総合支援プログラム（SBIR支援）の概要



ステージ	フェーズ0 (発想段階)	フェーズ1 (構想段階)	フェーズ2 (実用化段階)	事業化準備フェーズ
研究開発テーマ	農林水産業・食品産業における政策的・社会的な課題解決に資する研究開発テーマを設定			
対象	新たなビジネス創出を目指して革新的な研究開発に取り組む研究開発型スタートアップ等 (①原則設立15年以内の中小企業者(みなし大企業は除く)、②J-Startup 又はJ-Startup地域版の選定スタートアップ、 ③起業して研究開発成果の事業化を目指す研究者(応募は所属機関)、のいずれか)			研究開発型スタートアップ等 (中小企業者) 注: VC等からの出資要件有
期間	2年以内	2年以内	2年以内	1年以内
委託費	1,000万円以内/年度	1,000万円以内/年度	2,000万円以内/年度	VC等からの出資額と同額以内 (上限3,000万円/年度)
主な研究(取組)内容	革新的な技術シーズの創出	FS、PoCの実施	事業化に必要な研究開発 事業実施に向けた準備	PMFに向けた技術改良等の 取組
主な達成目標	革新的な技術シーズの確立 知財戦略の設定	技術的課題の明確化 有望な事業モデルの構築	法人設立を含む事業実施体制の確立 具体的な事業計画の策定 VC等からの出資の獲得	研究開発成果を基にした事業の 開始準備完了

経験豊富なプログラムマネージャー（PM）が、研究課題に応じて事業化をサポート

メンタリング

セミナー

マッチング

ピッチ

伴走支援
(メンタリング等
における支援例
(想定))

- ・ 技術改良の助言
- ・ 事業化を意識した技術的な助言
- ・ 知財戦略の助言 等

- ・ 技術改良の助言
- ・ FS、PoC、市場調査、マーケティング調査の支援
- ・ 事業モデル構築支援 等

- ・ 技術改良の助言
- ・ 経営人材マッチング
- ・ 知財調査、資金調達の支援
- ・ 事業計画策定支援 等

- ・ 技術改良の助言
- ・ PMFに向けた取組の支援
- ・ 販促戦略の策定、組織体制の構築等、事業開始準備の助言 等

将来のアグリ・フードテックを担う優秀な若手人材(スーパーアグリクリエイター(SAC))を発掘し、研究起業家としての能力向上を支援

3. 各フェーズの詳細



	フェーズ0 (発想段階)	フェーズ1 (構想段階)	フェーズ2 (実用化段階)	事業化準備フェーズ
取組内容	<p>農林水産・食品分野における政策的・社会的な課題の解決に資する新たなビジネス創出に繋がる革新的な技術シーズの創出に取り組みます。</p> <p>また、技術シーズの革新性や優位性を明確にするための知財調査を行うなど、事業化に関するビジョンを明確にして事業化までのマイルストーン設定等に取り組みます。</p>	<p>事業構想（構想レベルの事業モデル）の実現性を検証するための実現可能性調査（FS）や概念実証（PoC）を通して、技術改良等の研究開発や有望な事業モデルの構築に取り組むとともに、知財調査等を通じて知財戦略を確立します。</p>	<p>事業化に向けた実用化段階として、FSやPoCを通して構築した事業モデルの実現に向けて、研究開発（技術改良等）、事業の実施に向けた体制整備（法人設立を含む）、具体的な事業計画の策定、ベンチャーキャピタル（VC）等からの出資の獲得に取り組みます。</p>	<p>本プログラムの下位フェーズで得られたあるいは本フェーズで新たに得る研究開発成果を基にした事業の開始を目指す段階として、PMF（プロダクトマーケットフィット※）に向けた実証、検証、技術改良等を実施します。</p> <p>具体的には、①想定される顧客に対し、開発した製品・サービス等のテストマーケティング（売上・収入が生じない内容（無償での対応））を実施②その結果を検証・調査・分析③製品・サービス等の技術改良、という一連の技術開発を実施するとともに、④詳細な市場調査、販促戦略の策定を併せて行うことで市場適合性を高めます。</p> <p>※ 顧客の課題を満足させる製品・サービス等を提供し、それが適切な市場に受け入れられている状態</p>
実施期間	2年以内	2年以内	2年以内	1年以内
委託費	1,000万円以内/年度	1,000万円以内/年度	2,000万円以内/年度	VC等からの出資額と同額以内 (上限3,000万円/年度)
応募要件	<p>(※) 全フェーズ共通要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の事業化を目指す研究開発であること ・研究開発テーマに合致する内容であること ・まだ事業化されていない内容であること。 	<p>○以下の「フェーズ0の達成目標」を達成していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・革新的な技術シーズの確立（実験室レベルの実証が済んでいる、FSやPoCを実施できる技術レベル） ・想定する事業モデルを見据えた知財戦略の設定 ・対象となる魅力的な市場の選定と深掘り ・事業化に向けたマイルストーン（FS、PoC、法人立上げ、資金調達、事業開始など）の設定 <p>※全フェーズ共通要件（※）を満たしていること</p>	<p>○以下の「フェーズ1の達成目標」を達成していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FS、PoCを通して事業化に必要な技術的課題の明確化 ・FS、PoCを通じた有望な事業モデル（ビジネスシステムと収益モデル）の構築 ・事業モデルを踏まえた知財戦略の確立 ・成長性が期待できる市場とその規模の把握 <p>※全フェーズ共通要件（※）を満たしていること</p>	<p>○以下の「フェーズ2の達成目標」を達成していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業化に必要な研究開発（技術改良等）の完了 ・事業実施体制（法人設立を含む）の確立 ・具体的な事業化計画の策定 ・具体的な顧客の選定 ・VC等からの出資の獲得 <p>※全フェーズ共通要件（※）を満たしていること</p>
達成目標 (評価指標)	<p>以下の項目をすべて満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・革新的な技術シーズの確立（実験室レベルの実証が済んでいる、FSやPoCを実施できる技術レベル） ・想定する事業モデルを見据えた知財戦略の設定 ・対象となる魅力的な市場の選定と深掘り ・事業化に向けたマイルストーン（FS、PoC、法人立上げ、資金調達、事業開始など）の設定 	<p>以下の項目をすべて満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FS、PoCを通して事業化に必要な技術的課題の明確化 ・FS、PoCを通じた有望な事業モデル（ビジネスシステムと収益モデル）の構築 ・事業モデルを踏まえた知財戦略の確立 ・成長性が期待できる市場とその規模の把握 	<p>以下の項目をすべて満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業化に必要な研究開発（技術改良等）の完了 ・事業実施体制（法人設立を含む）の確立 ・具体的な事業計画の策定 ・具体的な顧客の選定 ・VC等からの出資の獲得 	<p>以下の項目をすべて満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PMFのために実施する、開発技術・製品等の事業化に向けた準備（技術改良等）の完了 ・研究開発成果を基にした事業の開始準備完了

4. プログラムマネージャー (PM)

- PMは、フォーティエンスコンサルティング株式会社の原氏、豊橋技術科学大学の高山氏、Beyond Next Ventures株式会社（以降、BNV）の有馬氏の3名が務めます。経済界、アカデミア、VCにおいてネットワークと事業経験を有する3者が、事業化をリードします。



原 誠 (PM代表)

フォーティエンスコンサルティング株式会社

フォーティエンスコンサルティング株式会社のマネージングディレクター。経済界のコンサル実績や経済界・農業界とのネットワーク、農林水産業の基礎、先端技術の知見を有し、農林水産業界の特性と技術を理解した上で、事業化に関する助言、関係機関とのマッチング等を行う。

FORTIENCE
CONSULTING



高山 弘太郎

豊橋技術科学大学

農林水産省委託プロジェクト等、多くの研究統括経験を有するとともに、自身も大学発ベンチャーの立ち上げに携わった実績もあり、ビジネス化の視点を含んだ技術的な助言が可能である。日本学術会議会員として国内外の多様な学術分野におけるアカデミアネットワークを有する。

TOYOHASHI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY



有馬 暁澄

Beyond Next Ventures株式会社

Beyond Next Ventures株式会社パートナー。国内外の農林水産業のスタートアップへの投資及びハンズオン支援、自治体とのアクセラレーションプログラムの運営実績を有し、事業化に必要な実践的な知見やノウハウを提供する。

**Beyond
Next
Ventures**

5. PMからのメッセージ

- 各PMの本プログラムに対するメッセージを掲載します。

微生物から宇宙まで、日本のものづくりの技術は世界に冠たるポテンシャルがあります。
皆さんが持つ革新的なシーズをスタートアップとして社会に実装し、
農林水産業界の課題解決や、産業の変革を一緒に目指しましょう。

原 誠

コロナ禍を越え、社会が大きく動き始めました。
新しいコトを生み出す若い世代から人生100年時代を謳歌する高齢世代までをターゲットとして、
農と食でインクルーシブな社会を実現するアグリテックを一緒に作りましょう。

高山 弘太郎

アグリ・フード領域は特に産学官民連携のエコシステムがカギを握ります。
本プログラムがエコシステムのハブになり、日本発のアグリ・フードシーズがグローバルに活躍することを
真に願います。現場の課題を解決し、“未来の食・農を創造する”技術・チームが
必ずこのプログラムから輩出されると信じ、本プログラムの発展に全力で寄与させていただきます。

有馬 暁澄

6-1. 研究開発テーマ



- 農林水産・食品分野の課題解決や産業の成長に貢献するテーマを、毎年募集します

過去の研究開発テーマ

※詳細は公募要領を参照ください

令和3年度

- 1 地域・未利用資源やバイオテクノロジー（オミクス解析、ゲノム解析・編集）等を活用した新規タンパク源、育種素材、飼料、資材、燃料等、持続可能な資源の開発
- 2 AI、ロボット、センシング、デジタル等を活用した、生産性、レジリエンス、安全性の高い持続可能な農林水産生産の実現に寄与する技術の開発
- 3 DX、AI、センシング技術を活用した需給のミスマッチや長期保存・輸送に対応する加工・流通・販売技術、サービスの開発
- 4 機能性食品、介護食品やスマートミール等、健康・医療に配慮した食生活を豊かにする技術、サービスの開発
- 5 農林水産業・食品産業における脱炭素化を推進する技術、サービスの開発

令和4年度

- 1 農林漁業者の高齢化や担い手不足等、生産現場の課題解消
- 2 農林水産物の加工・流通の合理化・迅速化
- 3 農林水産業の可能性の拡大と成長の推進
- 4 農林水産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現

6-2. 研究開発テーマ



研究開発テーマ及び例（令和5年度）

※詳細は公募要領を参照ください

1	<p>農林漁業者の高齢化や担い手不足等、生産現場の課題解消</p> <p>原材料、肥料・飼料、燃料の高騰対策に資する、効率施肥や代替肥料・飼料、肥料効率の高い作物作出、効率的な環境制御や栽培管理方法等に関する研究開発 データ及びアプリケーション連携による生産性の大幅な向上 作業の自動化・電動化・省力化・高精度化・低コスト化・効率化並びにそれらのシェアリングサービスによる人手不足の解消 農山漁村のインフラ、街づくりの維持・発展 鳥獣害対策、生産・飼養管理、動植物疾病対策等における効率化・省力化</p>
2	<p>農林水産物の加工・流通の合理化・迅速化</p> <p>異業種で進展している無人販売やAI・IoTを活用した需要予測等、新たなシステムにより、生産地から店頭までのリードタイムの適正化や鮮度維持、食品ロス削減、物流コスト削減 農林水産物の持つストーリー性等を消費者につなぐことによる付加価値の向上 中山間地域等の独自農産物・加工品のデザイン面の改善及び直接販売のサポートサービスの開発 食品・加工・外食産業における生産性向上、加工・流通改善</p>
3	<p>農林水産業・食品産業の可能性の拡大と成長の推進</p> <p>ゲノム技術による育種や発酵・微生物、生産技術の輸出プラットフォーム化など、先端技術やノウハウを活用した農業の発展への寄与 代替タンパク源や新たな食スタイルの提案など、フードテックに関する研究開発 国産農林水産物の安定供給・需要拡大、輸出促進 地域独自の農林漁業産品に由来する加工品、農業資材の研究開発</p>
4	<p>農林水産業・食品産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現</p> <p>持続可能な農林水産業に資する燃料生産技術や発電技術、VEMS等の事業化に向けた研究開発 持続可能性の高い肥料やバイオスティミュラント、農薬の研究開発 カーボンニュートラルの実現に資する研究開発</p>

6-3. 研究開発テーマ



研究開発テーマ及び例（令和6年度）

※詳細は公募要領を参照ください

1	<p>農林漁業者の高齢化や担い手不足等、生産現場の課題解消</p> <p>原材料、肥料・飼料、燃料の高騰対策に資する、効率施肥や代替肥料・飼料、肥料効率の高い作物作出、効率的な環境制御や栽培管理方法等に関する研究開発</p> <p>国産飼料・米粉等の利用拡大に資する研究開発</p> <p>データ及びアプリケーション連携による生産性の大幅な向上</p> <p>作業の自動化・電動化・省力化・高精度化・低コスト化・効率化並びにそれらのシェアリングサービス等、農林水産現場の労働人口減少への対応</p> <p>農山漁村のインフラ、街づくりの維持・発展</p> <p>農林漁業者の経営安定に資する革新的技術、サービス等の開発</p> <p>鳥獣害対策、生産・飼養管理、動植物疾病対策等における効率化・省力化</p>
2	<p>農林水産物の加工・流通の合理化・迅速化</p> <p>AI・IoTを活用した需要予測等、新たなシステムにより、生産地から店頭までのリードタイムの適正化や鮮度維持、食品ロス削減、物流コスト削減</p> <p>農林水産物のもつストーリー性等を消費者につなぐことによる付加価値の向上</p> <p>中山間地域における農産物・加工品等のデザイン面の改善及び直売のサポートサービスの開発</p> <p>食品製造業、外食産業におけるロボット・AI等の活用を通じた、生産性向上に資する革新的加工・流通改善技術の開発</p>
3	<p>農林水産業・食品産業の可能性の拡大と成長の推進</p> <p>ゲノム関連技術を活用した育種、生産技術など、先端技術による農林水産業の発展への寄与</p> <p>代替タンパク源や新たな食スタイルの提案など、フードテックに関する研究開発</p> <p>国産農林水産物の安定供給・需要拡大、輸出促進に貢献する技術等の研究開発</p> <p>海外依存度の高い品目の生産拡大に資する品種育成や高収量と高品質を両立する栽培技術の開発</p> <p>海外の規制やニーズに応じた生産・供給を可能とする新たな栽培技術や賞味期限延長技術等の開発等、輸出拡大に資する研究開発</p> <p>地域独自の農林漁業産品等に由来する加工品や農業資材の開発</p> <p>微生物・植物分子農業による有用物質生産</p> <p>購買・調理・喫食・健康等の包括的なデータを活用した、個別の食提案システム等の開発</p>
4	<p>農林水産業・食品産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現</p> <p>持続可能な農林水産業に資する燃料生産技術や発電技術、VEMS等の事業化に向けた研究開発</p> <p>農業、醸造、畜産等、地域の資源を活用した循環型システムの事業化に向けた研究開発</p> <p>持続可能性の高い肥料やバイオスティミュラント、農薬の研究開発</p> <p>環境負荷低減、カーボンニュートラル(TCFD、TNFDを含む)、気候変動への対応等に資する研究開発</p>

6-4. 研究開発テーマ

研究開発テーマ及び例（令和7年度）



※詳細は公募要領を参照ください

1	<p>農林漁業者の高齢化や担い手不足等、生産現場の課題解消</p> <p>原材料、肥料・飼料、燃料の高騰対策に資する、効率施肥や代替肥料・飼料、肥料効率の高い作物作出、効率的な環境制御や栽培管理方法等に関する研究開発</p> <p>国産飼料・米粉等の利用拡大に資する研究開発</p> <p>データ及びアプリケーション連携による生産性の大幅な向上</p> <p>作業の自動化・電動化・省力化・高精度化・低コスト化・効率化並びにそれらのシェアリングサービス等、農林水産現場の労働人口減少への対応</p> <p>農山漁村のインフラ、街づくりの維持・発展</p> <p>農林漁業者の経営安定に資する革新的技術、サービス等の開発</p> <p>鳥獣害対策、生産・飼養管理、動植物疾病対策等における効率化・省力化</p> <p>農地の粗放的利用対策に関する事業化を目的とした研究開発</p>
2	<p>農林水産物の加工・流通の合理化・迅速化</p> <p>AI・IoTを活用した需要予測等、新たなシステムにより、生産地から店頭までのリードタイムの適正化や鮮度維持、食品ロス削減、物流コスト削減</p> <p>農林水産物のもつストーリー性等を消費者につなぐことによる付加価値の向上</p> <p>中山間地域における農産物・加工品等のデザイン面の改善及び直売のサポートサービスの開発</p> <p>食品製造業、外食産業におけるロボット・AI等の活用を通じた、生産性向上に資する革新的加工・流通改善技術の開発</p>
3	<p>農林水産業・食品産業の可能性の拡大と成長の推進</p> <p>ゲノム関連技術を活用した育種、生産技術など、先端技術による農林水産業の発展への寄与</p> <p>代替タンパク源や新たな食スタイルの提案など、フードテックに関する研究開発</p> <p>海外の規制やニーズに応じた生産・供給を可能とする新たな栽培技術、品質保持技術・高付加価値製品の量産技術の開発等など、輸出拡大に資する研究開発</p> <p>地域独自の農林漁業産品等に由来する加工品や農業資材の開発</p> <p>微生物・植物分子農業による有用物質生産</p> <p>購買・調理・喫食・健康等の包括的なデータを活用した、個別の食提案システム等の開発</p>
4	<p>農林水産業・食品産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現</p> <p>国産農林水産物・食品の安定供給・需要拡大、輸出促進に貢献する技術等の研究開発</p> <p>海外依存度の高い品目の生産拡大に資する品種育成や高収量と高品質を両立する栽培技術の開発</p> <p>持続可能な農林水産業に資する燃料生産技術や発電技術、VEMS等の事業化に向けた研究開発</p> <p>農業、醸造、畜産等、地域の資源を活用した循環型システムの事業化に向けた研究開発</p> <p>持続可能性の高い肥料やバイオスティミュラント、農薬の研究開発</p> <p>環境負荷低減、カーボンニュートラル(TCFD、TNFDを含む)、気候変動への対応等に資する研究開発</p>

6-5. 研究開発テーマ



研究開発テーマ及び例（令和8年度）






※詳細は公募要領を参照ください

1	<p>農林漁業者の高齢化や担い手不足等、生産現場の課題解消</p> <p>原材料、肥料・飼料、燃料の高騰対策に資する、効率施肥や代替肥料・飼料、肥料効率の高い作物作出、効率的な環境制御や栽培管理方法等に関する研究開発 国産飼料・米粉等の利用拡大に資する研究開発 データ及びアプリケーション連携による生産性の大幅な向上 作業の自動化・電動化・省力化・高精度化・低コスト化・効率化並びにそれらのシェアリングサービス等、農林水産現場の労働人口減少への対応 農山漁村のインフラ、街づくりの維持・発展 農林漁業者の経営安定に資する革新的技術、サービス等の開発 鳥獣害対策、生産・飼養管理等における効率化・省力化 生物多様性や農業生産を脅かす侵略的外来種等の省力的で効率的な防除技術や、次世代型動物ワクチンの開発等の動植物疾病対策 農地の粗放的利用対策に関する事業化を目的とした研究開発</p>
2	<p>農林水産物の加工・流通の合理化・迅速化</p> <p>AI・IoTを活用した需要予測等、新たなシステムにより、生産地から店頭までのリードタイムの適正化や鮮度維持、食品ロス削減、物流コスト削減 農林水産物のもつストーリー性等を消費者につなぐことによる付加価値の向上 中山間地域における農産物・加工品等のデザイン面の改善及び直売のサポートサービスの開発 食品製造業、外食産業におけるロボット・AI等の活用を通じた、生産性向上に資する革新的加工・流通改善技術の開発</p>
3	<p>農林水産業・食品産業の可能性の拡大と成長の推進</p> <p>ゲノム関連技術を活用した育種、生産技術、植物工場や陸上養殖等の次世代型食料生産システム、異分野融合高度化技術など、先端技術による農林水産業の発展への寄与 代替タンパク源や発酵技術を活用した食品開発技術、新たな食スタイルの提案など、フードテックに関する研究開発 海外の規制やニーズに応じた生産・供給を可能とする新たな栽培技術、品質保持技術・高付加価値製品の量産技術の開発等など、輸出拡大に資する研究開発 地域独自の農林漁業産品等に由来する加工品や農業資材の開発 微生物・植物分子農業による有用物質生産 購買・調理・喫食・健康等の包括的なデータを活用した、個別の食提案システム等の開発</p>
4	<p>農林水産業・食品産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現</p> <p>国産農林水産物・食品の安定供給・需要拡大、輸出促進に貢献する技術等の研究開発 海外依存度の高い品目の生産拡大に資する品種育成や高収量と高品質を両立する栽培技術の開発 持続可能な農林水産業に資する燃料生産技術や発電技術、VEMS等の事業化に向けた研究開発 農業、醸造、畜産等、地域の資源を活用した循環型システムの事業化に向けた研究開発 持続可能性の高い肥料やバイオスティミュラント、農薬の研究開発 環境負荷低減、カーボンニュートラル(TCFD、TNFDを含む)、気候変動への対応等に資する研究開発</p>

7. 伴走支援のメニュー

■ フェーズや支援対象者の課題、ニーズに応じて、様々な伴走支援のプログラムを用意します。

伴走支援メニュー及びメンターチームについて

メニュー	内容
 メンタリング	支援対象者の課題やニーズに応じて、 メンターチーム を組成。ビジネスモデル・事業計画の策定、ニーズヒアリング等を支援する
 セミナー	事業化に向けた基礎から応用まで、有識者によるノウハウ共有の場を提供するセミナーを開催（起業の基礎、知財戦略、資金調達方法等）
 企業マッチング	共同研究や事業連携の機会創出を目的とし、経済界や農林水産業に取り組む企業を招き、マッチング会を開催
 資金調達マッチング	投資家や金融機関を招き、支援対象者の資金調達機会を実施
 ピッチ	スタートアップが本事業で磨いたビジネスモデルや製品の構想を発表し、VCや投資家、金融機関からの資金調達及び事業連携を図る

その他、イベントへの出展も計画している

メンターチームの構成※

メンバー	役割	人材ソース
メンター	支援対象者の課題とニーズに応じ、事業化のため知見とノウハウを教授	PMのネットワークよりメンターをマッチング
経営人材候補 1	ビジネスモデル策定や事業計画作成、資料作成を補助	経営人材候（ILP）を複数名マッチング。
経営人材候補 2		
支援補佐機関（支援窓口）	日程調整や協力機関との調整、議事録作成等の事務業務を担当する	支援補佐機関であるBNV、フォーティエンスから割当

ILPとは

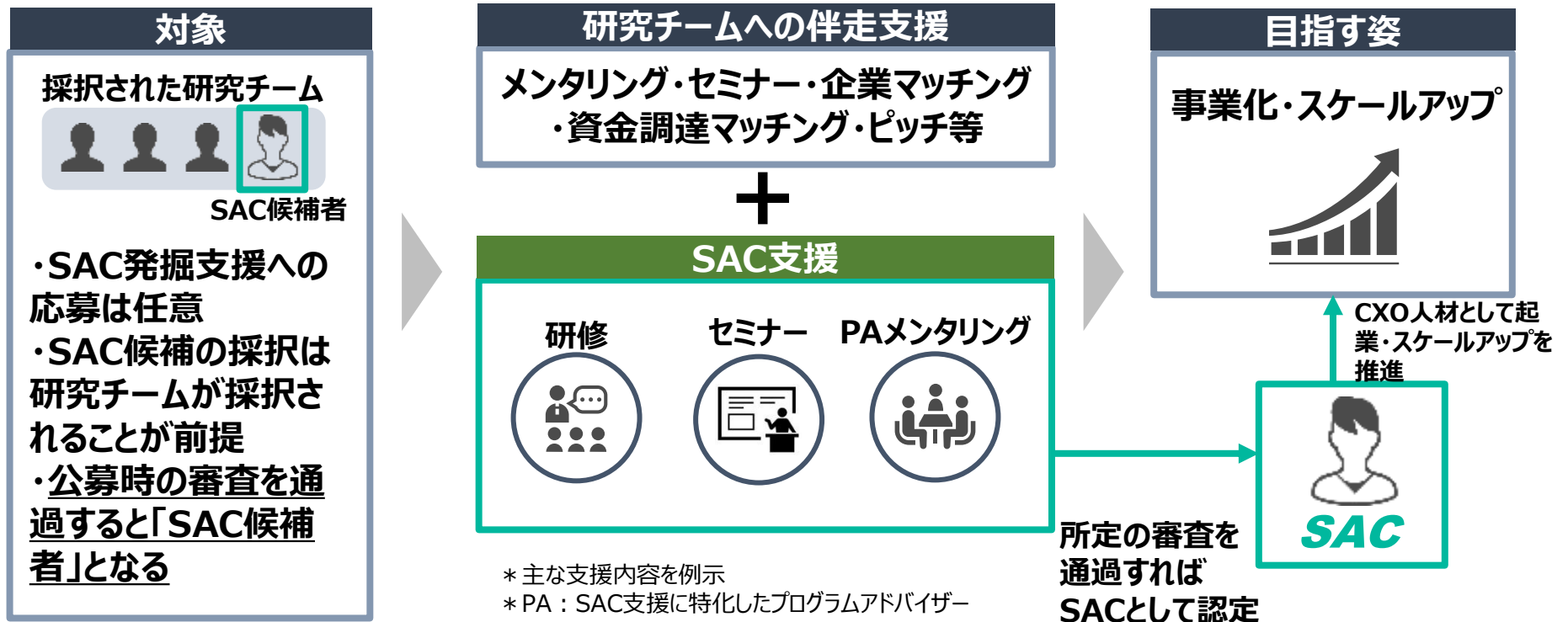
BNVによる経営人材候補データベース。経営人材候補は事業戦略を描ける一定のスキルを持ち、アグリ・フード領域の変革に期待を持つ方で、将来リードする意志のある方を想定。支援対象者に対し事業化の道筋を体験し、その道を歩みだすきっかけにして頂く。

※ILP…Innovation Leaders Program

※対象者やフェーズ、課題に応じてチーム構成は変更される

8. SAC (スーパーアグリクリエーター) 発掘支援プログラム

- 革新的な技術シーズやアイデア等（研究課題に関するもの）を有し、これらを活用してイノベーションを創出し、農林水産・食品分野の課題解決へ貢献するとともに、CxOを目指すなど将来のアグリ・フードテックを担う優秀な若手人材（スーパーアグリクリエーター（SAC））を発掘し、その能力向上を支援するもの。
- 公募審査を通過したSAC候補者に対して、研修・セミナー・PAメンタリング等の支援を実施。

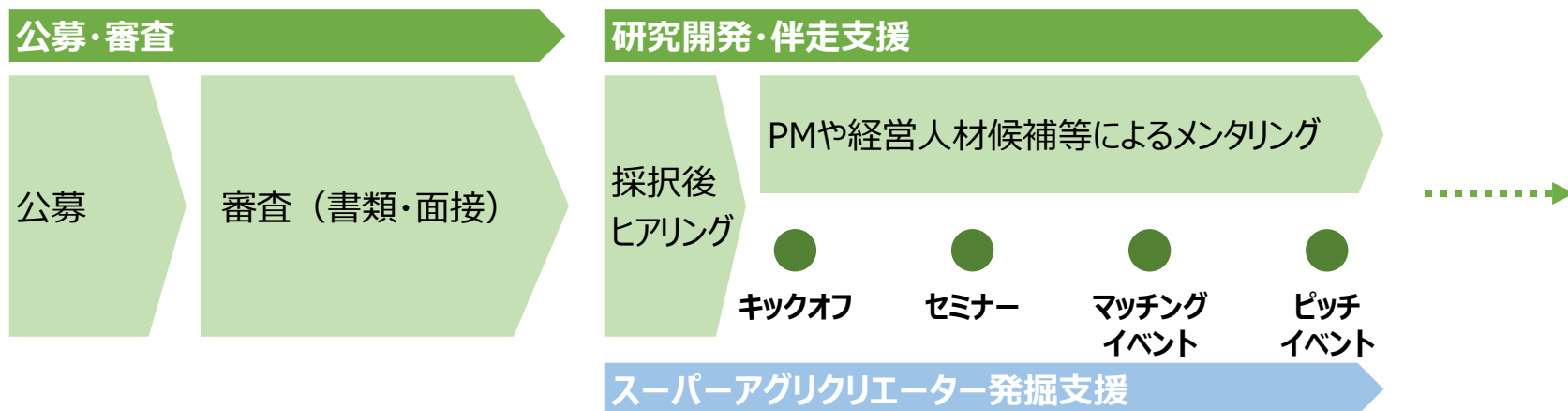


- ※ 具体的な支援内容・スケジュールは、別途フォーティエンスコンサルティング株式会社からSAC候補者の課題に連絡します。
- ※ 委託契約締結に向けて、生研支援センターに対しては、試験研究計画書の別紙8「SAC候補者の役割」を提出してください。
- ※ SAC支援に係る旅費については、研究委託費に計上可能です。

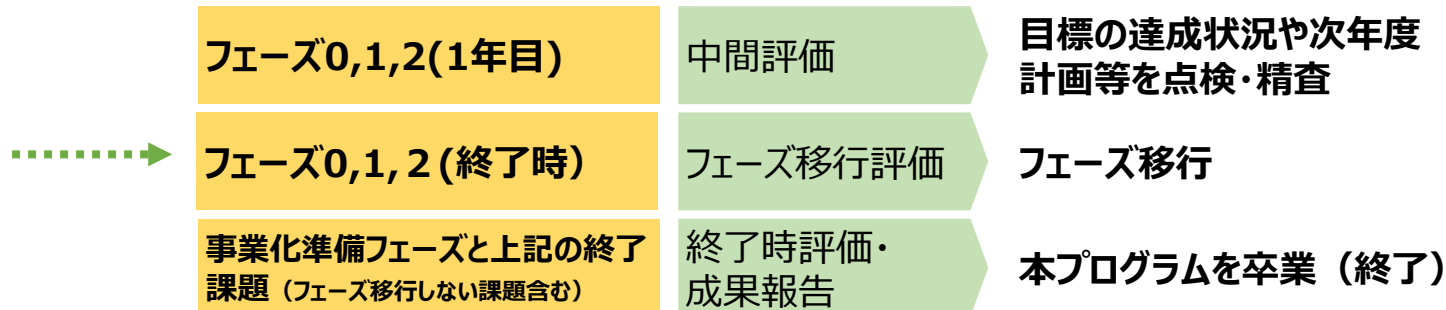
9. プログラムスケジュール

- 本プログラムの大きな流れは、以下のとおりです。年度やプログラムの進捗等により変更される可能性がありますので、ご注意ください。

プログラムの流れ（イメージ）



評価とその後の主な流れ



※中間評価はフェーズ0,1,2の1年目、終了時評価は全フェーズの終了時に行います。フェーズ0,1,2は、1年度終了時に、研究開発や事業化に向けた取組に関する評価を行い、評価結果を踏まえて、試験研究計画の見直し又は中止等の措置を行う場合があります。また、上位フェーズへの移行を希望する場合は、フェーズ移行評価で移行の可否等が決定されます。実際のフェーズ移行の可否はさらに予算等を勘案する場合があります。

10. (参考) 日本版SBIR制度について※

- 従前の日本版SBIR制度は、イノベーション創出のための制度設計となっていませんでした。そこで、実効性を向上するため、内閣府を司令塔とし、省庁横断の制度見直しを実施（2021年4月施行）。本スタートアップ総合支援プログラムも、この制度に沿って設計、執行されます。

従前の日本版SBIR制度の課題（抜粋）

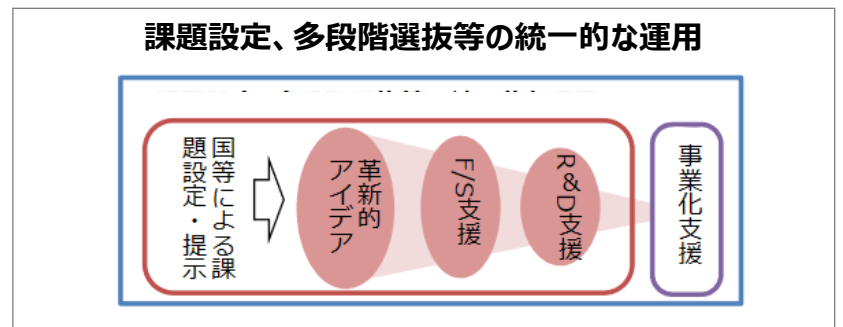
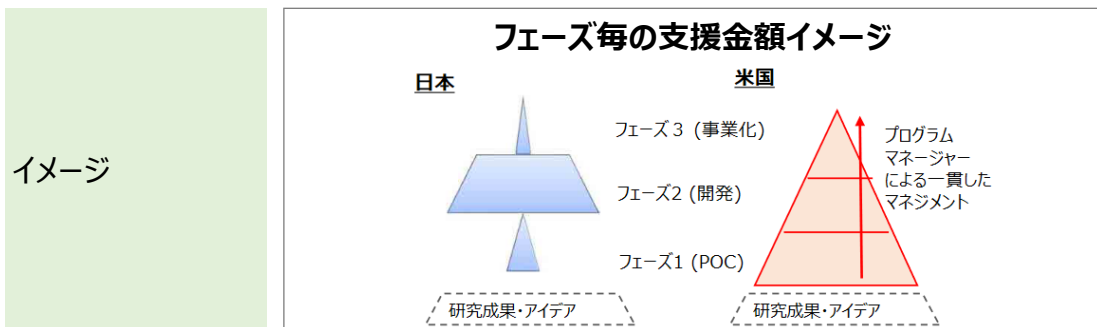
従前の日本版SBIR制度は、イノベーション創出のためのスタートアップ支援とはなっていなかった。

課題・テーマ提示	行政で必要な技術やサービスの課題設定の不提示
フェーズ毎の支援	連続的な支援の不在
プログラムマネージャー	適切な課題設定や実用化を支援するプログラムマネージャーが不在
統一ルール	効果向上の省庁統一ルールが不在

新たな日本版SBIR制度（抜粋）

新たな日本SBIR制度では、公募執行について省庁統一のルールを定め、実効性を高めイノベーション創出を促進する。

政策ニーズに基づく研究開発課題の提示
フェーズに応じて段階的に選抜しながら、連続的な支援を実施
プログラムマネージャーによる運営管理、調達・民生利用への繋ぎ等の支援
スタートアップ等に適した運用、審査基準、体制の標準化



※本項は「日本版SBIR制度の見直しについて（内閣府）」を参考に作成。